

カール16世グフタス国王陛下 のお言葉



名譽ある来賓の皆様、ご出席の皆様、環境は地球規模の網、グローバルネットであります。あらゆる人々と、あらゆる国民を結びつけています。第一回国連人間環境会議、一九七二年ストックホルムにて開催された会議のモットーは、「かけがえのない地球」でありました。当時、私達が憶測した以上に、これが正確な意味を持っているものとなったのであります。

真の問題は、こういうことであります。明日の世界、すなわち百億人の人口を持った明日の世界は、どのようなのでありましょうか。全ての人間が住むために、本当に良好な環境をつくりだすことができるのでしょうか。今日、資源の不足の結果、貧しい国々におきましては、環境の悪化が発生した反面、豊かな国々におきましては、そのライフスタイルの結果、浪費と汚染が発生いたしました。

しかし同時に、このことも明確であります。良好な高い生活水準とクリーンな環境を両立させる、結びつけることは可能であります。このためには、いわゆるクリーンな技術と、賢明な生活様式が必要なのであります。

歴史を通して、先進的な工業社会が顕著に発展いたしました。これは環境に対して大きな影

響を与えました。そして、将来の破滅を回避するためには、人類は、その未来に対して完全な責任を負わなければいけません。そして、この惑星の本当の管理者にならなければいけません。

生存のために適した環境の保全は、チャレンジであります。これを一人で、あるいは一カ国で、問題を解決することはできません。国際的なレベルで協力しなければいけないのであります。日本やスウェーデンのような先進工業国は、特別な責任を有しています。これらの国々には、資源が存在しており、テクノロジーを生みだすことができ、そして他国に模範を示すことができるのであります。すなわち、クリーンな大気や水、自然の保全のための模範となることができます。

私はこう確信しています。このセミナーは、日本とスウェーデンの今後のさらなる協力に向けての第一歩、そして重要な第一歩であると確信しております。優れた講演者、専門家がこの会議に集っており、必ずや高いレベルのディスカッションが行われるのであります。私はこの後の教時間を大変楽しみにしております。

「今日における環境問題への挑戦」シンポジウム
の開会をここに宣言いたします。